



三戸町の明るい未来のため 決意あらたに議会活動に取り組みます 三戸町議会議員 竹原 義人

新年あけましておめでとうございます。

町民の皆さまには、輝かしい令和3年の新春を健やかにお迎えのことと心よりお喜び申し上げます。また、常日ごろから議会活動に対し、深いご理解とご協力を賜り、心から厚くお礼を申し上げます。

昨年3月に町議会一般選挙が行われ、新たな体制がスタートしました。私も町議会議長という大役を仰せつかり、その責任の重さを認識しつつ、初心に帰り気持ちを新たにして議会運営に取り組み、三戸町発展のため全力を傾注してまいり所存であります。また、昨年におきましては、町民皆さまの新型コロナウイルス感染症拡大防止の取り組みへのご協力に対しまして、心より感謝申し上げます。今後も、町民皆さま一人ひとりが感染予防を意識して日常生活を送っていただきますようご協力をお願いいたします。

さて、人口減少・少子高齢化社会において、まちづくりは時代の潮流とともに斬新な発想を必要としており、地方は今まさに生き残りをかけた正念場を迎えているといっても過言ではありません。行政の担う役割は、自主性および自立性の向上が求められ、従来に増して重要なものとなっております。町では、10年先を見据えた、令和2年度からの「第5次三戸町総合振興計画」を策定しており、町の政策形成や実施に多面的に参画し、意思決定する議決機関として、議会の果たすべき役割はますますその重要性を増しています。私たち議員も、二代表制の下での役割を踏まえ、行政と常に緊張ある関係を保ちながら、町民の代表としての責務と役割を自覚し、三戸町の明るい未来のため、決意を新たに議会活動に取り組んでまいり所存ですので、変わらぬご支援、お力添えを賜りますよう心からお願い申し上げます。

結びに、令和3年が天候に恵まれ平穏な年でありますよう祈念するとともに、町民の皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げ、新年のごあいさつといたします。



郷土に誇りを持ち、夢や目標の実現に努める子を育みます 三戸町教育長 友田 博文

新春を迎え、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

町民の皆さまには、平素より町の教育の充実・発展のために深いご理解とご協力を賜り心から感謝申し上げます。

ことし4月から新学習指導要領による新しい教育が中学校で始まります。町ではGIGAスクール構想により、町内の全ての児童生徒に一人一台のコンピュータを配置しました。これにより情報化時代に対応した教育の充実を図るとともに、新型コロナによる教育環境の変化などに対してもオンライン学習などで子供たちの学びを保証できるようになりました。

さて、三戸町では小中一貫教育を導入して13年目を迎えました。平成29年には青森県ではじめての文部科学省令による小中一貫教育校になりました。特色ある教育としては、小学校1年生からの教科による英語を学んでいます。また、「立志科」という町が独自に創設した教科があります。立志科の学びの狙いは、ふるさと三戸町のことを学び、郷土に誇りを持つこと。これからの新しい時代に向けて生きる力を育むこと。学んだことを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力を身に付けること。将来の夢や目標を探し、見つけ志を立てることなどです。立志科の学習などを通して、ふるさと三戸町に誇りを持ち、夢や目標の実現に努める子どもを育ててまいります。また、三戸城跡の国史跡指定を目指して、文化庁へ申請する手続きを進めています。まず、これまでの発掘調査の成果をまとめた総括報告書を作成しました。今後、文化庁へ提出する意見具申書を作成して提出し、文化庁の審議で申請が認められますと国史跡指定になる見込みです。また、「三戸お城講座」を開催し、町内外の皆さまに三戸城を知っていただく活動を広く進めてまいります。

教育委員会では今後とも、小さな子どもからお年寄りまで、町民の皆さまが学習の場所や年齢の垣根を越えて積極的に関わりながら、それぞれの能力・適性、興味・関心に応じて学ぶことのできる、歴史と文化を大切に、一人ひとりが輝く教育のまちづくりに努めてまいります。

結びになりますが、町民の皆さまの一層のご理解、ご協力をお願い申し上げ、新年のご挨拶といたします。

令和三年新年のあいさつ

町民が主役の協働のまちづくり ～さらなる前進に向けて～

三戸町長 松尾 和彦



新年あけましておめでとうございます。

令和3年の年頭にあたり謹んで新年のごあいさつを申し上げます。町民の皆さまにおかれましては、輝かしい新春を健やかに迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。

私といたしましては、町民の皆さまからの温かいご支援とご理解を賜り2期目の町政を担わせていただくこととなりました。改めまして皆さまからの町政運営に対する負託に応えるため全力で取り組んでまいりますので、より一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

顧みますと、昨年は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い緊急事態宣言が発令され、飲食店などの休業要請や外出自粛要請、学校の休校、各種イベントの中止など皆さまの日々の生活から地域経済に至るまで影響を及ぼすものとなりました。このような状況のなか、新型コロナウイルス感染症に対する支援策として、売上げが減少した町内事業者への緊急支援金交付事業、全町民を対象とした商品券交付事業などを実施いたしました。そのほか、待望のブランド産品であるさくらんぼの「ジュノハート」の初出荷や地域商社SANNOWAによる特産品を活用した「里山エール」シリーズをはじめ、新たな三戸精品の開発・販売や「11ぴきのねこラッピングバス」の展示開始など明るい話題もありました。福祉関連では、病後児保育施設「ジャブ」、母子健康包括支援センター「SANGAぽぽ」を開設し、子育て世代が安心して暮らすことできる環境の整備を行いました。教育関連では、GIGAスクール構想実現のため、児童生徒ひとり1台のタブレットを配置したほか、全ての小中学校へのエアコン整備を実施いたしました。また、青森県立三戸高等学校存続のため、署名活動を行い、県当局に要望活動を行ったところであり、今後は学校と町とが連携し三戸高等学校の魅力化を推進してまいります。

本年におきましては、農商工業の三戸ブランド構築のためトップセールスを積極的に展開し、ネームバリューと所得の向上に取り組むほか、三戸町地域公共交通について再編と見直しを実施し、将来において、持続性の高い地域公共交通を確保・維持するため、新たな交通サービス導入も視野に効率的で効果的な公共交通ネットワークの構築を図ります。三戸城跡・城山公園につきましては、国史跡指定の申請を行うとともに公園全体の整備計画と今後のあり方について町民の皆さまからの意見を拝聴し、町のシンボルであり、憩いの場である三戸城跡・城山公園の環境整備に取り組んでまいります。そして、近年、広域化、激甚化する自然災害への防災対策の一環として、防災行政無線設備のデジタル化に着手し、町民への情報伝達手段の整備を図ることとしております。未だに収束の見えない新型コロナウイルス感染症に配慮し、新しい生活様式の定着を図り、社会経済活動が営めるよう対策を講じてまいります。

2期目のスタートにあたり町民が主役の協働のまちづくりをさらに前進させ、三戸町の明るい未来に向かって皆さまとともに、職員一丸となり、邁進してまいります。

結びに、本年が町民の皆さまにとりまして、より良い年となりますよう念願し、新年のあいさつといたします。